

専大生の「チカラ」

学業に、課外活動に、海外ボランティアにさまざまな場面で専大生の「チカラ」を発揮した3人を紹介しよう。

大倉 直也さん<経済1>

M&Aテーマに最年少受賞

「高橋亀吉記念賞」佳作に

経済学部1年次の大倉直也さんの論文「M&A時代の幕開け—日本企業は如何に行動すべきか—」が、優れた経済論文を表彰する(株)東洋経済新報社(柴生田晴四社長)主催「第23回高橋亀吉記念賞」の佳作に選ばれ、12月12日、都内のホテルで表彰された(最優秀作は該当なし。優秀作2本)。同賞は、経済評論家・エコノミストの草分けである高橋亀吉氏(元『週刊東洋経済』編集長)の業績をしのび、「経済論壇に新風を吹き込む」という趣旨で、1984年に設立されたもの。「大学1年生とは思えないほどの高度な知識と論理性」と高い評価を受けた大倉さんは、23回の同賞の歴史の中で最年少の受賞者となった。



▲柴生田社長から表彰される大倉さん

流通業に興味を持ち、高校時代から『週刊東洋経済』を愛読。入学後、「新入生学術奨学生」(年額30万円)に応募し、採用された。「自分の力を試してみようと課題図書を読んで2000字のレポートをまとめたのですが、そこで認められたという自信が今回の応募のきっかけになりました」。入学時に配布された『知のツールボックス』を参考に論文の書き方を習得し、M&A成功のための三つのキーワードをポイントに8000字近い論文を夏期休暇前半で一気にかき上げた。後半は、2001年ノーベル経済学賞受賞の米・コロンビア大学のジョセフ・E・スティグリッツ教授の著書『入門経済学』、『マクロ経済学』などをじっくり読みこみ、「経済学の新たな視点」を得て、後期からの講義に生かしたと話す。

表彰式では審査員から「一つのことを集中して学べば、専門家になれる」、「ぜひ海外留学を」といったアドバイスも受けた。「ふだん新聞やテレビで拝見している著名な審査員の方や柴生田社長にお会いでき、本当に感激しました。今回の経験を無駄にせず、将来は『経済』の知識を生かして、社会のために役立つ仕事に就きたいと考えています。2年次から『市場と政府コース』を選びました。難関の野口旭ゼミに入ることが決まったので、自分の専門を見つけ、しっかり学んでいきます」と、喜びと抱負を語ってくれた。

論文は[東洋経済Web](#)に公開されている。

花巻 未生さん<経済2>

全日本学生囲碁十傑戦に優勝

大学で後輩と切磋琢磨「頂点」に

11月に、東京・日本棋院会館で行われた第44回全日本学生囲碁十傑戦(朝日新聞社、全日本学生囲碁連盟主催)で花巻未生さん(経済2)が混戦を制し、初優勝を果たした。全国8地区の予選を勝ちあがった31人と女子代表1人(含む大学院生・高校生)が争うこの大会。学生囲碁界では無名に近い本学からの優勝者誕生に、関係者から驚きと喜びの声があがっている。

父・千秋さんの影響で小1から囲碁を始め、近所の碁会所に通った。「大人にも勝てるのがうれしくて」練習を積み、小6で神奈川県少年少女囲碁大会で優勝。趙治勲十段の目にとまり、弟子入りを勧められた。中1から千葉県土気町の趙師匠の家に住み込み、プロを目指す厳しい修行の日々を過ごした。

「高い目標があったので、不安はなかったです。家事を手伝いながら修行させていただき、礼儀作法から精神的なものまで、学びました」と振り返る。その後、囲碁の強豪校・新宿山吹高校に通いながら土、日は本

学OBの菊池康郎さん(昭27商経)が代表を務める緑星囲碁学園で腕を磨く。しかし高2までにプロ試験に合格できずプロへの道を断念。「普通の大学生に」と本学経済学部に入學し、囲碁からは距離を置いたが、07年4月、高校の後輩で全国高校選手権準優勝の実力者・大熊悠人さん(二部法1)と、プロ棋士・王立誠九段を父にもつ王景弘さん(商1)が入學したことで、再び囲碁の世界へ。殿村晋一商学部教授に顧問を依頼し「愛好会」という形で学生囲碁リーグの団体戦に3人で出場(本来は5人一チーム)。1年間で5部から3部に昇格した。

「以前の棋譜を見ると、今は力が落ちていると思うし、考える時間も長くなった。今回の優勝はこれまでの『貯金』で勝てたようなものですが、勝利にこだわらず『楽に』臨んだことが勝因だと思います」と分析する。

花巻さんを慕う有力な後輩が入ったことで、学内で切磋琢磨(せっさたくま)する環境が整った。「この大会の連覇と、学生タイトルの総なめ。大会では、上位を専大生が独占すること」を新たな目標にし、学生囲碁界に「専大旋風」を巻き起こしたいと、「部」昇格へ動き始めている。「ほかの大学にはない、明るく楽しい雰囲気気の部にしたいですね」と抱負を話してくれた。

里吉 謙一さん<経済3>

カンボジアで、ウガンダで

草の根国際協力活動

「語学がたん能なわけでもない。すごいスキルがあるわけでもない。でもそんな自分を必要としてくれる子どもたちが、世界にいる」——。

里吉謙一さん(経済3)はアジアやアフリカなどの発展途上の国々に飛び込み、草の根の国際協力活動に汗を流している。

「子どもが大好きで、学校の先生になりたかった」と言う里吉さん。「海外」に目を向けるようになったきっかけは、2001年「9・11」同時多発テロで。以来、映像を通じて国際問題を知り、貧困などに目を向けるようになった。「いつか、途上国で学校に通えない子供たちのために学校を造ろう」という大きな夢が膨らんだ。



▲ホームステイ先のファミリーと一緒に里吉さん(左から2人目)=ウガンダで

本学では狐崎知己教授のゼミに入り、国際協力サークル「S・I・A」に所属。最初の海外訪問は1年次夏のインド。「マザー・テレサの施設(障害児の家)」を訪ねるボランティアツアーに参加した。

昨春は「モンドルバイ村プロジェクト」と銘打ち、経済学部の専大生7人とともにカンボジアの村の小学校で、日本風「縁日」をやったのけた(06年5月号既報)。モノや金に頼らない子どもたちへの「心の援助」を行い、本年度の育友会奨励賞に輝いた。プロジェクトは現在も進行中で、モンドルバイ村の孤児院「友情の家」の代表を日本に招き、本学でカンボジアの現状を伝える講演会を催すことで、学生との異文化交流を計画。育友会奨励金の獲得で、実現への大きな一歩を踏み出した。

HIV/エイズが猛威をふるうウガンダを訪ね、エイズ孤児たちが直面する問題に取り組むNGO(非政府組織)活動も。現地団体とともにエイズ予防の知識を伝えるワークショップを開き、家庭訪問をした。さらに学校建設にも携わった。

ウガンダでの家庭訪問で、エイズに侵された母親が、自らの命よりも子どもの将来を心配する姿に接し、「この人たちのために、なんとかしたい」という気持ちが強くなった。同時に「民族や言語が違って人間が考えることはみな同じと気づかされました」。この2月、学生部の海外研修・国際交流奨励制度の奨学金を得て、3度目のウガンダへ旅立つ。

育友会奨励賞



第8回育友会奨励賞の表彰式が12月15日、神田キャンパスで行われ、奨励賞を受賞した8組に松田了会長から表彰状と奨励金が手渡された＝写真(詳細は2月発行予定の『育友』112号に掲載します)。

【奨励賞】

▽モンドルバイ村プロジェクト(代表・里吉謙一＝**今月号記事**)

▽富松可奈子(経済4)＝ケニアとの出会い―私のチャレンジ紀行―

▽体育会漕艇部(10月号既報)

▽体育会ボクシング部川内将嗣(商4＝11月号既報)

▽文学部ネット授業研究会(6月号既報)

▽川上隆志ゼミナール(5月号既報)

▽綿引啓太(ネット情報2＝10月号既報)

▽地球温暖化対策プロジェクト(12月号既報)。

また努力賞に選ばれた6組は次の通り。

▽大倉直也(経済1) ▽浅川聖(経済4) ▽高田駿(法1) ▽大森洋平(法1) ▽上仲孝明(商2)

▽StartUpsフォーラム(代表・桃井亜里紗・文3)(敬称略)

就職活動本番直前！ 総合就職合宿研修会、学内OB・OG訪問

12月1、2日と8、9日の2展開で行われた総合就職合宿研修会には238人が参加。人事担当者による模擬面接を受けた。

12月15日に神田キャンパスで行われた学内OB・OG訪問には約350人が参加し、先輩17人からのアドバイスを身近に受けた(2月16日にも開催。詳細は[就職課ホームページ](#)で)。



▲「模擬面接」でいまの自分の実力を知る



▲先輩からのアドバイスを身近に聞けるチャンス

《内定への道<3>》

エントリーシート突破法！

人気企業は応募者の7割～8割を落とすとも言われているエントリーシート（以下、ES）。今月はそのポイントだ。

【ポイント1】設問意図を考える

なぜ、「大学時代に力を入れたこと」や「失敗経験」を問うのか。記載された内容から、「どのような行動特性や考え方を持った学生か」を読み取り、その人物が自社でも活躍するかを見ているのだ。ぜひ、ESを書く前に、企業ホームページやOB・OG訪問で「活躍している先輩社員」（おそらく、求める人材像である）を調べてみよう。そのうえで、自分の過去の行動をもう一度見つめ直そう。同じ素材でも訴え方が変わってくる。

【ポイント2】まずは長文を書け！

いきなり400字、200字のESを書こうと思っても、少ない文字数で何を書いたらいいのかわからない。まずは、400字以上の長文を書いてみよう。その文章を400字用、200字用に、必要のない個所を削除していく。ただし、削除だけでは文章が繋がらない。表現方法を変えてみることも必要だ。

【ポイント3】ESでビジネス能力を訴える

書店に行くとビジネス文書に関する書籍が山ほど売っている。それほど的確なビジネス文書を書けない社会人が多いということだ。わかりやすい文書の注意点は次の3つだ。(1) 結論を先に書く。伝えたいことを明確化できる (2) 無駄な文書を省き簡潔に。回りくどい言い回しがないか、誰にでもわかる誤解のない表現かをチェックする (3) 具体的な内容を裏付けとして用意し、5W1Hを考えて書く。とりわけ、WHY（なぜ）、とHOW（どのようにして）を意識しよう。

【ポイント4】読む立場に立て！

人気企業になれば、数千通のESが提出される。どのような書き方なら読みたくなるかを考えて表現を工夫しよう。(1) 表題を付ける (2) 個条書きを使う (3) 適度な文字の大きさなど、工夫の余地は数多くある。

☆ESは、他人が読んで評価するもの。就職課という第三者の活用は、非常に有効だ☆